

BASCHET

京都芸術センター x 京都市立芸術大学 アーティスト・イン・レジデンス・プログラム2015
マルチ・レイツ パンエ音響彫刻修復プロジェクト tallerbaschet.cat

Exhibition

Nov. 4 (wed) - 12 (thu) 10:00 - 20:00 (only last day 10:00-17:00)

Kyoto Art Center, North Gallery
Admission free / Open Everyday

Exhibits
Watanabe Phone, Katsura Phone, and others.

Concert & Film Screening

Nov. 15 (sun) 15:00 - 17:10 (Open 14:30)

Kyoto Art Center, Multi-purpose Hall

15:00-15:40 Film Screening "Structures, Sculptures, Sonores Baschet" Jacques Barzac (1982)

15:40-15:50 Intermission

Adult ¥1,500 (Adv.) / ¥2,000 (Day)
Student ¥1,000 (Adv. & Day)

15:50-16:40 Toru Takemitsu "Seasons" and Improvisation

16:40-17:10 After-Talk (Sachiko Nagata, Yasunori Yamaguchi, and Special Guest: Stomu Yamash'ta)

Players (Alphabetical) Yasuko Miyamoto, Sachiko Nagata, Mitsuru Nakatani, Martí Ruidr, Yasunori Yamaguchi

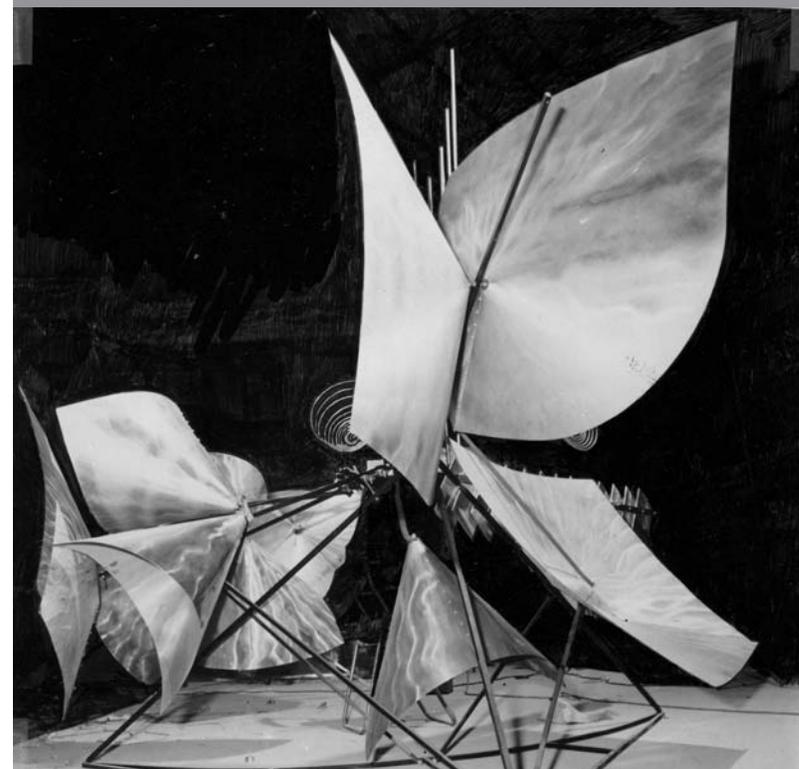
主催 京都芸術センター、京都市立芸術大学

助成 平成27年度文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業、公益財団法人野村財団、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団

協力 大阪府



京都市立芸術大学
Kyoto City University of Art & Design



京都芸術センター×京都市立芸術大学
アーティスト・イン・レジデンス プログラム2015
マルティ・ルイツ バシエ音響彫刻修復プロジェクト

今年度、本プログラムで招聘するのは、バルセロナを拠点に活動するアーティストであり研究者でもあるマルティ・ルイツです。彼は、フランソワ・バシエとベルナール・バシエ兄弟の研究者であり、これまでも世界各国のバシエ音響彫刻の修復を手掛けるとともに、彼自身もオリジナルの音響彫刻を制作してきました。

音響彫刻とは、楽器であると同時に彫刻作品でもあるバシエ独特のオブジェであり、音を発生させる振動部と、円錐形の音響増幅装置から主に成り立っています。1970年の大阪万博では鉄鋼館のプロデューサーであった武満徹がフランソワ・バシエを招聘し、17基の音響彫刻が展示・演奏されました。ところが、現在ではそのほとんどが解体され、錆びたり変形したり損傷を受けたままの状態では保管されており、当時どのような姿で人々の目と耳を楽しませていたのかは、写真から想像するより他はありません。

すでにルイツは2013年に大阪の万博公園内でバシエの音響彫刻2基を修復し、EXPOパビリオンと京都芸大でレクチャー・コンサートを行ないました。このとき修復したのは、川上フーンと高木フーン（関根フーンという説もある）で、このふたつは現在、鉄鋼館のエントランスホールに展示されています。ルイツは今回の滞りで、桂フーンと渡辺フーンの2基を修復し、11月4日から12日まで京都芸術センターのギャラリー北で展示します。11月15日には武満徹がバシエ音響彫刻のために作曲した『四季』のコンサートを開催します。『四季』は1970年の万博での演奏会が初演でしたが、2名の打楽器奏者が入国トラブルで間に合わなかったという経緯があります。今回は、この初演の際に演奏した山口恭範さんをお迎えして『四季』をより「完全な」形で上演します。



Illustration: Alain Villeminot

バシエ音響彫刻展覧会

会期 | 2015年11月4日(水)-12日(木)
10:00-20:00 (最終日のみ10:00-17:00)
会場 | 京都芸術センター ギャラリー北
*入場無料・会期中無休
展示物 | 桂フーン、渡辺フーンほか
協力 | 京都市立芸術大学美術学部彫刻専攻

バシエ音響彫刻コンサート & 映画上映会

会期 | 2015年11月15日(日) 15:00-17:10
会場 | 京都芸術センター フリースペース
演奏者 | マルティ・ルイツ、中谷満、永田砂知子、
宮本妥子、山口恭範
特別ゲスト | ツトム・ヤマシタ
料金 | 一般前売1,500円 / 当日2,000円
学生1,000円(前売・当日共)
協力 | (株)サウンド・コア (Sound Core Co.,Ltd.)

プログラム

15:00-15:40 映画上映 "Structures, Sculptures, Sonores
Baschet" (ジャック・バルザック, 1982)
15:40-15:50 休憩
15:50-16:40 演奏会 武満徹『四季』ほか
16:40-17:10 アフタートーク

京都芸術センター

〒604-8156
京都府京都市 中京区室町通 蛸薬師下る 山伏山町546-2
Tel. 075-213-1000 http://www.kac.or.jp E-mail. info@kac.or.jp



宮本妥子 | Yasuko Miyamoto

同志社女子大学学芸学部音楽学科打楽器専攻卒業、同大学音楽学会《頌啓会》特別専修課程修了。ドイツ国立フライブルク音楽大学大学院ソリスト科を首席最優秀にて修了。ドイツ国家演奏家資格 (konzertexamen) 取得。滋賀県文化奨励賞、平和財団芸術奨励賞を受賞等、数々の国際コンクールで入賞、優勝。これまで世界10カ国以上の現代音楽祭でソリストとして招待演奏するなど欧米各地で高い評価を得る。帰国後、(財)地域創造の公共ホール音楽活性化事業協力アーティストとして、全国各地でのアウトリーチやコンサートを行う。現在、滋賀県立石山高等学校音楽科、相愛大学非常勤講師、同志社女子大学嘱託講師、滋賀県文化審議委員、次世代育成部会委員を務めるなど、多方面で活躍。パール&アダムス・モニター・アーティスト。
http://www.yasukomiyamoto.com/

永田砂知子 | Sachiko Nagata

東京藝術大学卒業。打楽器奏者・即興演奏家。クラシックから前衛までボーダーレスに活動する打楽器奏者。金沢健一「音のかけら」、渡辺泰幸「土の音」など主にサウンドアートの分野で活動する。現在は斎藤鉄平の鉄のスリットドラム《波紋音》を表現の中心に置き国内外で演奏活動中。2009年パリでベルナール・バシエと出会い、以後、在仏の姉・宮崎千恵子と共に日本におけるバシエ兄弟の紹介に従事。2013年修復記念コンサートにマルティ・ルイツと共に出演。2015年東京国立近代美術館「フランソワ・バシエ音響彫刻の響き」の企画・演奏に携わる。バシエ協会・代表。
http://www.nagatasachiko.com

中谷満 | Mitsuru Nakatani

1973年京都市立芸術大学音楽学部打楽器専攻卒業。同年大阪フィルハーモニー交響楽団に入団。1977年に1年間西ドイツ国立ベルリン音楽大学に留学、ベルリン・フィルの首席ティンパニストのW.テリヒェンおよび国立ベルリン・ドイツ・オペラ管弦楽団の首席打楽器奏者K.キースナーに師事し、ベルリン放送管弦楽団、ベルリン・ドイツ・オペラ管弦楽団などに出演する。1990年よりパーカッション・アンサンブル「シュレーゲル」を主宰するなど、オーケストラでの演奏のほかにも数多くの協奏曲独奏やアンサンブルの活動を行う。テリヒェンの「ティンパニ協奏曲」を数回にわたり紹介。2010年酒井格「ティンパニ協奏曲」を初演。2012年大前哲「ティンパニ協奏曲」を初演。2014年フライブルク音楽大学打楽器科定期公演にて共演。及びマスタークラスを行う。村本一洋、山口恭範に師事。相愛大学音楽学部教授。同志社女子大学非常勤講師。

マルティ・ルイツ | Marti Ruids

1982年バルセロナ生まれ。アーティスト。バルセロナ大学美術学部で彫刻と絵画を専攻し、同大学を卒業。「リアリズムと環境芸術」コース修士課程修了。同大学博士課程で「バシエ兄弟の彫刻に適用された音響」を研究。幼少より音楽に親しみ、音楽学校でギターを学ぶとともに、古楽とヴィオラ・ダ・ガンバをサンティアゴ・ミロンに師事。電子音響にも関心をもち、「Katatsumuri」プロジェクトを行ない、1995年から数枚のCDをリリースしている。また、カタルーニャのサウンドスケープ録音プロジェクト、環境芸術プロジェクト、カウベルの音を音階に調律しなおし、草を食べている牛たちの間に自動生成的に音を生むプロセスをつくるプロジェクトなどを行う。バルセロナ大学研究員。バルセロナ大学美術学部大学院「アート・ソノール」コース担当教員。

山口恭範 | Yasunori Yamaguchi

東京藝術大学を卒業後、欧米で研鑽を積み、1966年ソロリサイタルを開催。1972年より10年間、新日本フィルに在籍。同年、高橋アキ、小泉浩とグループ「ARK」を結成。1983年武満徹企画の「Music Today」でソロリサイタルを行う。2004年、05年、オペラプロジェクト「タケミツ・マイウェイ・オブ・ライフ」にソリストとして出演（ベルリン・パリ・東京）。2008年ジュリアード音楽院でレクチャーを行う。名古屋音楽大学客員教授。第1回「中島健蔵賞」、第13回「朝日現代音楽賞」受賞。

ツトム・ヤマシタ | Stomu Yamash'ta

17歳で渡米、インターローケン・アーツ・アカデミー、パークリー音楽院等で学び、ベルリン・フィルハーモニー他世界的オーケストラと共演。「打楽器のイメージを変えた人」と若くして巨匠の地位を得る。20世紀を代表する作曲家と共に、打楽器の独立した音楽を確立。70年代のフュージョン音楽の草分け的存在である。また、京都・東寺での仏教音楽研究により、新たな音楽形態を確立。石の楽器サヌカイトと出会い、禅の世界と音の融合「音禅法要」を生み出し日仏で発表。Sacred Bridge Foundationの特別顧問、芸術監督など国際的に活躍。